

流山防災まちづくり プロジェクト

2024/03/03

～男女共同参画の視点を大切にしたい 誰一人取り残さない避難所づくり～

流山防災まちづくりプロジェクト 矢口 輝美



一緒に考えてみましょう
避難所開設の際に運営側
の立場に立たれる皆さん
へ質問です。

一緒に考えてみましょう

朝10時に震度7の地震が発生。流山小学校に避難してきました。停電しているエリアが広く、避難者は夜7時に250人になりました。夜8時にやっと食事が届きました。おにぎりが200個あります。どのように分けますか？

1. 身体が弱っている人から順番に配る
2. 半分ずつにして、残りはとっておく
3. その他です

一緒に考えてみましょう

震度7の地震が発生。100人が流山小学校に避難して来ました。地震から8時間、トイレの水は流れず、汚物で満杯になっています。行政職員はけが人の対応に追われています。あなたは何をしますか？

1. トイレが汚いと怒る
2. 周りの人に声をかけ、掃除をする
3. その他です

一緒に考えてみましょう。

真夜中に震度7の地震が発生。家の倒壊がひどく、家にはられません。あなたは暗闇の中を避難所に向かう事にしました。

すると、前に赤ちゃんを抱っこし、もう一人のお子さんの小さな手を引きながら、女性が避難しています。あなたはどうしますか？

1. 女性に声をかけて一緒に逃げる
2. 先に逃げて、避難所で会った人に知らせる
3. その他です。

流山防災まちづくりプロジェクトのあゆみ

2018年9月	パートナーシップながれやま主催の女性防災リーダー養成講座参加(全6回講座)
2019年3月	女性防災リーダー養成講座修了生で防災宣言を発表
2019年4月	流山防災まちづくりプロジェクト発足
2020年4月	流山市民活動公益事業 認定(2020年度・2021年度・2022年度)
2021年	命と暮らしを守る避難所運営ハンドブック策定 出前講座「多様性に配慮した避難所開設訓練」スタート
2021年10月	あしたのまち・くらしづくり大賞 振興奨励賞受賞
2022年	命と暮らしを守る避難所運営ハンドブック改訂版策定 関東地方ESD活動支援センター 学び合いプロジェクト2022参画
2023年	出前講座・講演会など多方面で活動中

多様性に配慮した避難所開設訓練



避難所の種類

準備ができる

避難所

風水害

準備ができない

避難所

地震

避難所 3つのキーワード

避難所はその時、その場にいるメンバーで立ち上げ、運営していくものです。

コロナ禍における避難所開設の際の最優先事項は感染症対策です。

避難所にはいろいろな方が避難してきます。

コロナ禍での避難所受け入れ訓練

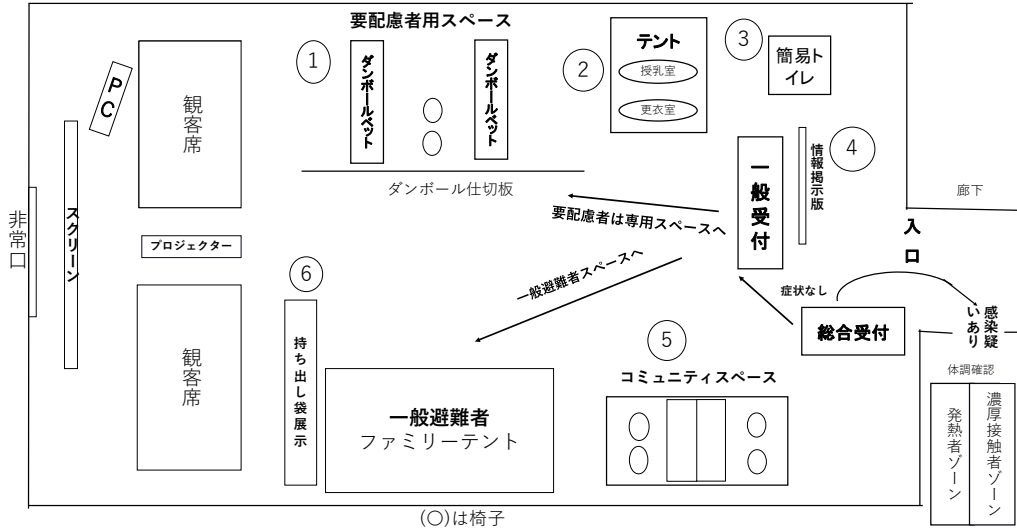
総合受付
ゾーニング

一般受付

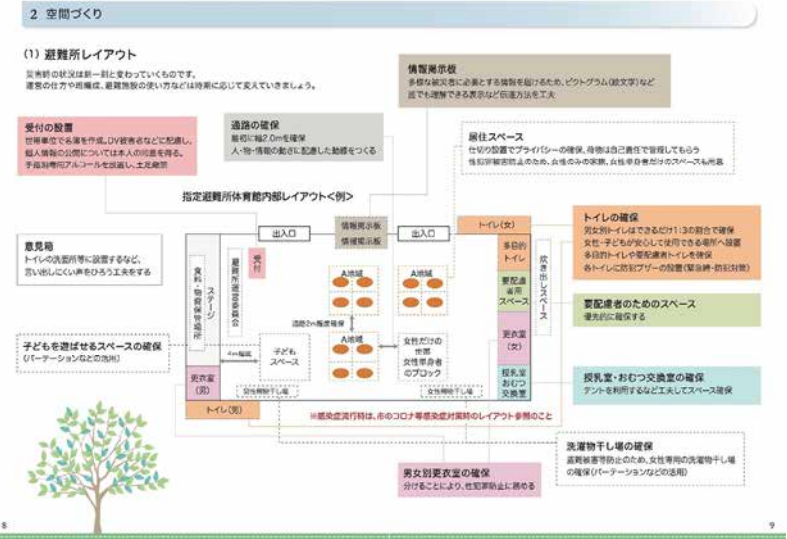
- ・ 避難者カードの確認
 - ・ 要配慮等の確認 など
 - ・ **発熱、咳等の体調確認**
 - ・ 濃厚接触者ゾーン
 - ・ 発熱者等ゾーン などへ移動
- ・ 避難者カードの提出
 - ・ **各ゾーンへの移動**
 - ・ 一般避難者ゾーン
 - ・ 要配慮者ゾーン
 - ・ 足の不自由な高齢者
 - ・ 目の不自由な人
 - ・ 状況が飲み込めず不安な認知症の人
 - ・ 日本語が通じない外国人

ガールスカウト千葉「地球で防災を考える」
避難所開設運営訓練用レイアウト図 (流山エルズ体育館)

2024.3.03実施予定



避難所レイアウトの一例



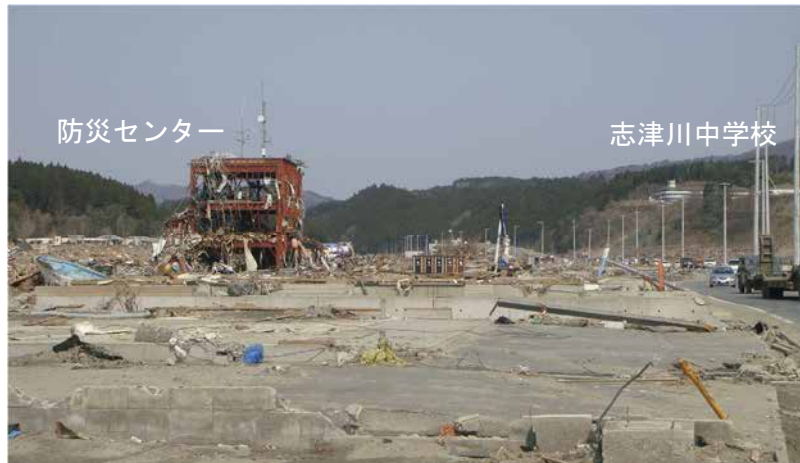
「東日本大震災の経験を踏まえた 命を守る防災教育について」

令和4年10月22日(土)
文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習 安全課
防災教育係 安田 弘秋

地震発生後の報道



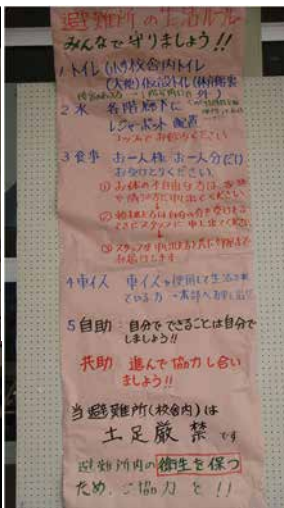
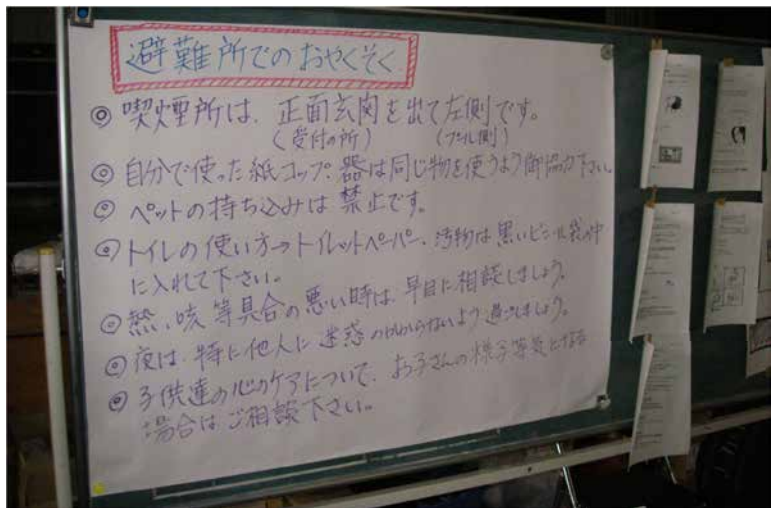
南三陸町の震災遺構



停電～板書記録 (H23/3/11)



「避難所の約束」 (H23/3/15)



避難所用外部トイレ設置 (H23/3/19)、外トイレ



支援物資の管理



令和元年 東日本台風による被害

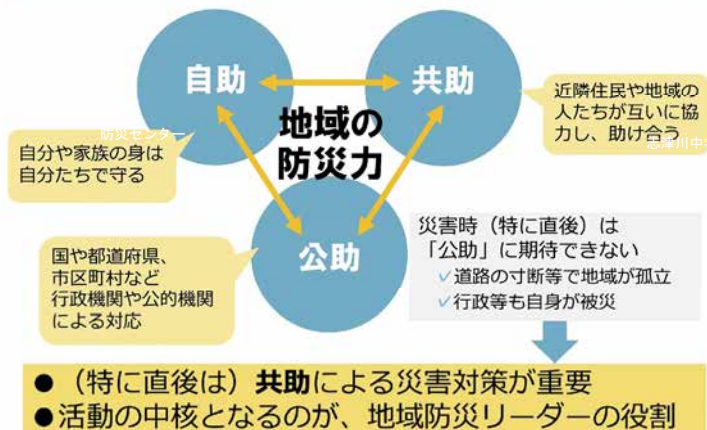


丸森町の被害の様子 (伊具高校)



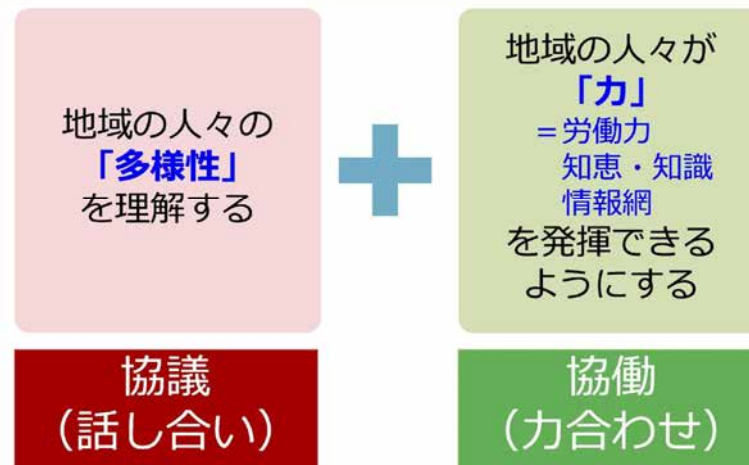
大郷町の被害の様子 (吉田川付近)

地域の防災力と自助・共助・公助



出典：内閣府地域防災リーダー入門テキストスライド10

共助を機能させるには？



地域の人々とは？ | 多様性・ダイバーシティの視点から



<参考> 要配慮者 (災害対策基本法第8条より)
 高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者

男性と女性で異なる 災害が与える影響

生物学的な違い

生まれつきの性別

社会的・文化的に形成された違い

社会通念や慣習の中で、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」による性別

社会で期待されている (又は担っている) 役割や立場の違い

男性と女性で異なる災害の影響

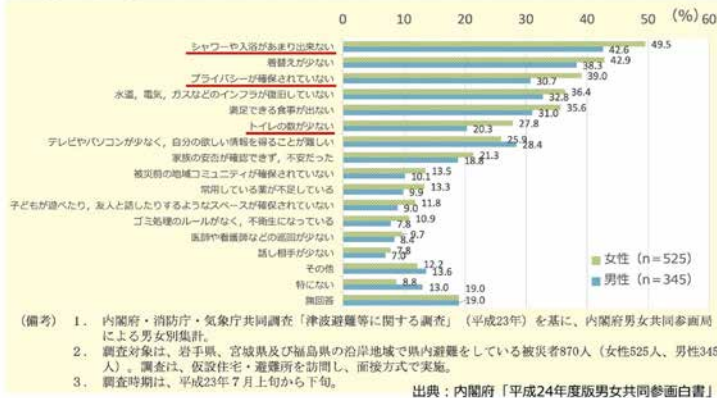
(例)

- 女性の死者が男性を上回る
- 男性に比べて女性は災害後の雇用状況や健康状況が厳しい
- 女性の方が避難所生活で不便を感じる (生活環境、暴力など)

抱える困難と支援ニーズも男性と女性で異なる

参考データ 東日本大震災直後からの避難所での生活

震災直後からの避難所での生活について困っていることとして、女性は「シャワーや入浴があまり出来ない」「プライバシーが確保されていない」「トイレの数が少ない」の割合が男性に比べて高くなっている



東日本大震災時に女性が抱えた困難 | 女性たちの声

物資をもらうにも、小さな子どもたちを抱えていかなければならず、大変だった(シングルマザー)

避難所で、夜になると男の人が毛布の中に入ってくる。・・・周りの女性も「若いから仕方ないね」と見て見ぬふりをして助けてくれない(20代女性)

避難所の威圧的な空気の中で、女性や立場の弱い人々が要望を出したり、発言するのは難しい

車と仕事を流された失業保険は延長されたが、ももとの給料が低いので暮らしていけなかった。女性には仕事が無かった。がれき処理は男性向けだった。(シングルマザー)

DVで離婚調停中の夫が避難所に探しに来て、気持ちが落ち着かなかった。

自分も友達も生理用品が無い事に困った。トイレトペーパーを使うのが無かった(10代女性)

市の窓口に女の人は減多にいなかった。男性が配ったり、周りに男性がたくさんいる中で支援物資の生理用品を受け取りに行くのが恥ずかしかった(10代女性)

出典：『東日本大震災における支援活動の経験に関する調査』東日本大震災女性支援ネットワーク 調査チーム
『聞き取り集：40人の女性たちが語る東日本大震災』イコールネット仙台
『東日本大震災：被災地の若年女性調査と提言』Tohoku Girls' Voices! オックスファム・ジャパン

災害時には平常時における社会の課題が顕在化

平常時の社会の課題

災害時

意思決定の場に女性が少ない/いない

災害対応や復旧・復興で女性の意見やニーズが反映されず、必要な支援・物資が提供されない

「男性は仕事」「女性は家庭」といった性別を理由とした役割分担意識が根強い

避難所運営で男性がリーダー、女性は食事や片付けなど、特定の役割が片方の性別に偏る

DVや性暴力など女性に対する暴力

避難所などでプライバシーが守られないことや、様々なストレスや制約が重なることなどによりDV・性暴力のリスクが高まる

女性は非正規雇用で働く場合が多い(※女性の被雇用者のうち、非正規雇用で働く人の割合は約56%)

解雇、雇止めなどの対象になりやすく、世帯収入が減る・途絶する

出典：「労働力調査(基本集計) 2019年度(令和元年度)」総務省

性別を理由とした役割分担意識に関連した問題

家事・育児・介護による家庭責任の過度な負担



仕事の責任・家庭の経済的責任のプレッシャー

ストレスや心身の不調

アルコールやたばこへの依存

家族ケアと職場復帰との板挟み



避難者や支援者等とのコミュニケーション不足による仮設住宅でのひきこもり、孤立・孤独死

被災した自宅の片付け

ただし、上記はあくまで男女別の傾向であり、こうした傾向を参考としながら、全ての人・世帯の支援を考える必要がある

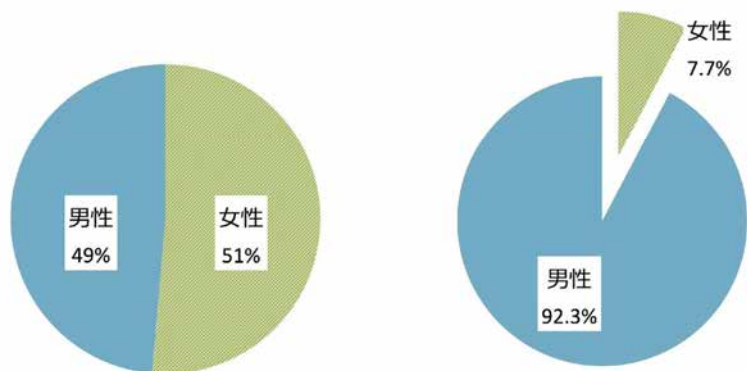
例：共働き家庭の保育問題、男性の介護者の負担、責任ある立場に就く女性の困難、家族のケアのため職場復帰が遅れることでの解雇・降格 など

出典：減災と男女共同参画 研修推進センター(GDRR)資料 一部改変 GDRR

防災に関する意思決定の場は男性が中心

日本の人口割合

市区町村防災会議の委員に占める割合



出典：内閣府男女共同参画局調べ（平成27年4月時点）

日頃の防災活動も男性が中心 | ある市での防災訓練の風景



避難所は生活の場です

私たちは地域の防災リーダー

- ・ 災害時の「考える力」「判断し行動する力」「生き抜く力」を身につける
- ・ 性別にとらわれず、一人ひとりが認め合い、チカラを活かしあう事が災害リスクの軽減につながることを理解する
- ・ 将来どこにいても、地域の防災リーダーとして活躍できる人材の育成と、災害に強い地域づくりを目指す

～助けられる人から助ける人へ、地域を支える一員に～